

令和 5 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 1	学校教育目標の設定・共有	
現 状	昨年度の自己評価はB（64.0%）であった。	
評価指標	全教職員が学校教育目標を共通理解し、その達成に向けて努力する。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員と生徒との信頼関係確立。 ・規律と秩序の遵守。 ・全ての生徒の希望進路の実現。 	
実際の取り組み状況	「全体方針・ビジョン」及び各分掌の「具体的目標」にしたがって、検証と改善の計画実施を促した。	
自己評価	B (78.3%)	[反省・意見] ・教師と生徒の人間関係は良好と思われるが、すべての教員が生徒の希望進路実現のために協力し、取り組む必要がある。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	B	[意見・提言] ・全教職員一丸となって生徒との信頼関係を確立してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 教職員間の連携を強め、一人ひとりの生徒を複数の教職員で見守り支援していくという意識を高めていくことによって、生徒の学校への信頼はより改善されると考えられる。そのために教職員間のコミュニケーションのさらなる改善を望む。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	本校がどのような教育に力を入れていこうとするのかを再確認し、教職員が共有し、一体となって指導を行っていくことが必要である。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上**
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 5 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書

評価項目 2	組織の充実・校務分掌の明確化	
現 状	昨年度の自己評価はB（62.0%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標や重点目標を達成するため、各分掌の役割や取り組み内容を明確にする。 ・組織的に連携するため、自己の職務の検証と他の分掌への提案を行う。 	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・各分掌の円滑な連携。 ・常に改善を念頭にして業務を行う。 	
実際の取り組み状況	各分掌間で協力して業務を行った。	
自己評価	B (64.8%)	[反省・意見] ・業務の偏りについては、まだ改善が必要である。常に働き方改革を意識し、改善する必要がある。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	B	[意見・提言] ・一人一台端末の導入など新時代への対応が求められる中、デジタル技術などを活用し、時代に対応して、改善に取り組んでほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] チーム制など従来とは異なる校務分掌の形態をとることにより、業務の偏りを改善するという方法も考えられる。引き継ぎ体制を明らかにして担当業務を少しずつ変えることなどにより業務が人に張り付かないかたちをつくることが重要である。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	働き方改革を常に意識し、無駄を省き、効率化を図りたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上**
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満**
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満**
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満**

令和 5 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 3	学年・学級運営の充実	
現 状	昨年度の自己評価はB（82.0%）であった。	
評価指標	学年団は、教育目標や重点目標を把握し、生徒の居場所となる学校や学級づくりに努力している。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学年情報交換会を行う。 ・定期的に学年集会を行う。 ・定期的に大掃除を行い、校内の美化に努めている。 ・2者面談、3者面談を1年にそれぞれ最低1回行う。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記の項目について、検証と改善をはかった。	
自己評価	B (82.4%)	[反省・意見] ・学級担任だけでなく、チームで生徒を指導する体制をもっと機能させる必要がある。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	B	[意見・提言] ・学級担任や副担任や教科担当等で、チームで指導に当たってほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] チームによる生徒の指導を充実させるために、学級担任を中心に生徒に関する情報の共有会などを定期的実施してはどうか。クラウドツールなどを活用して生徒に関する情報を教職員間で共有するという事も考えられる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	各学年団が会議時間を持てるような時間割の工夫を今後も続けたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 5 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 4	教育課程の円滑な推進	
現 状	昨年度の自己評価はB（80.8%）であった。	
評価指標	各コースごとに特色ある教育課程の編成に努めている。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業交換のしやすい時間割を組み、自習を前年より5%減ずる ・クラス分けを工夫し、効果的な時間割編成をする。 ・生徒の現状を考慮し、各コースの見直しを行う。 ・特進系は大学入試共通テストを、総進系は推薦入試を目標とした効果的なカリキュラムが組まれている。 ・中学校は中高一貫教育の効果的なカリキュラムが組まれている。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記の項目について、検証と改善をはかった。	
自己評価	A (88.8%)	[反省・意見] ・生徒の主体性を引き出すために、教科を越えて学校全体で対応していく必要がある。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	A	[意見・提言] ・多様化する試験に向けて、教科の枠を越えて、学校全体で取り組んでほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 教育課程の編成についての改善努力が少しずつ成果として表れてきたと感じられる。今後も引き続き、改善を続け、変化の激しい時代の流れに合った魅力的なカリキュラムとしていくことが重要である。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	・教員が教科の枠を越えた活動をどのように整えていくのかを検討していく必要がある。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した** ア、イの合計が85%以上
B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 5 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 5	教科指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価はA（87.6％）であった。	
評価指標	生徒の実態を踏まえた学習指導方法の工夫・検証・改善が行われている。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果を年に1回、各科で検討し、その都度改善策を検討する。 ・英検、漢検の目標合格率を定めてクリアする。 ・計画的に宿題・課題を出し、家庭学習の習慣が定着するように工夫する。 ・授業改善、アクティブラーニングの積極的導入。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85％以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記の項目について、検証と改善をはかった。	
自己評価	B (81.8%)	[反省・意見] ・ICT活用に関しては、ほぼ全員の教師が取り組んでいるが、自ら学び続ける子どもを育てることがこれからの課題である。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者評価	B	[意見・提言] ・生徒が自ら学ぼうとする姿勢を身につけるように取り組んでほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] ICTの活用度がこの数年で大きく上がったことは評価に値する。今後は教え込む指導から、生徒が自ら主体的に目標や課題をみつけて、解決の手段を考え、行動できるようになる指導へと転換してほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	来年度は全生徒が1人1台端末保有となる。個人端末を活用する授業を展開する必要がある。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85％以上**
B ほぼ達成した ア、イの合計が60％以上、85％未満
C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40％以上、60％未満
D 現状より悪くなった ア、イの合計が40％未満

令和 5 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書

評価項目 6	生徒指導の充実	
現 状	昨年度の自己評価はB（77.3%）であった。	
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が共通理解のもとに統一的な生徒指導を行っている。 ・情報交換が常になされ、全教職員が問題を共有している。 	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻者数1日10以下、整容違反0。 ・挨拶指導、入室指導の徹底。 ・いじめ早期発見、早期指導、早期解決。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記項目について、検証と改善をはかった。	
自己評価	B (69.2%)	[反省・意見] ・「いじめ」防止対策について早期かつ組織的に対応できたが、だらしない服装をしている生徒が増えてきた。整容指導を強化する必要がある。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	B	[意見・提言] ・いじめに関する対応は評価できる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	B	[意見・提言] 時代の変化に伴い、生徒指導の規準やあり方も少しずつ変化をしてきている。このような状況だからこそ、形だけの表面的な指導ではなく、生徒と向き合い、多くの対話を通じての指導が重要になってくると考えられる。生徒指導においても、生徒自身に主体的に考えさせて行動させることが重要である。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	素早く、きめ細かい対応を心がけたい。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 5 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書	
評価項目 7	進路指導の充実
現 状	昨年度の自己評価はB（77.8%）であった。
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導を向上させるため、朝学習や家庭学習の習慣の定着をはかる。 ・放課後講習を実施し、模試の分析などによって現役合格率を上げる。
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の大学進学満足度80%以上。 ・卒業生の専門学校進学満足度80%以上。 ・卒業生の就職満足度80%以上。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。
実際の取り組み状況	上記の項目について、定期的な検証と改善をはかった。
自己評価	B (80.0%) [反省・意見] <ul style="list-style-type: none"> ・早い段階から進路意識を育て、生徒一人ひとりが自分の将来をしっかりと見据えた上で、毎日の学習に取り組めるようにしたい。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった
学校関係者評価	B [意見・提言] <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育などを通じて、進路に対するモチベーションを高めることができるような指導をしてほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる
第三者評価	B [意見・提言] 進路指導においても、「なぜ進学をするのか」という基本的な部分から生徒ときちんと対話をして、生徒自身に考えさせることが極めて重要である。この点に粘り強く取り組むことにより、生徒から強いモチベーションを引き出してほしい。また進路に関する意識を高めるために常に様々な情報の提供を行うことも大切である。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる
次年度に向けての課題	大学入試共通テストの問題分析と対策。自分の考えをまとめ、プレゼンできる力の育成。

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 5 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 8	家庭・地域との連携の推進	
現 状	昨年度の自己評価はA（85.6%）であった。	
評価指標	日頃から保護者との連携を強め、学年通信、ホームページ等により、適切な学校の情報を提供する。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・学年通信を年間10回以上発行する。 ・近隣中学校へ年2回以上訪問する。 ・文化祭の参観数が前回を超える。 ・オープンスクールの参加者数が前回を超える。 ・PTA総会の出席者数を把握する。 ・学校ホームページを充実させるとともに、印刷物等で学校情報を公開する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記項目について、検証と改善をはかった。	
自己評価	A (85.3%)	[反省・意見] ・第1回目のオープンスクールを7月上旬に行い、参加人数が大幅に増えた。今年も開催時期を検討し、内容の質も高めたい。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	A	[意見・提言] ・クラッシーによる情報提供には満足できる。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] オープンスクールにおいては参加者がどのような印象をもったのかをきちんとモニタリングしておき、それを次回に活かすことが重要である。また実施にあたっては、生徒がいかに生き活きと活動をしている様子をみられるかが重要であることは言うまでもない。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	オープンスクールの内容改善とタイムリーな情報発信の検討。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 5 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目9	省エネルギーの実行	
現 状	昨年度の自己評価はA（95.2%）であった。	
評価指標	光熱水費や用紙等の無駄を省き、省エネやリサイクルに取り組んでいる。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・光熱費、暖房費を前年より減ずる。 ・分別回収を徹底する。 以上の項目につき、ア、イ（下記自己評価の基準を参照）の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り組み状況	上記項目について、定期的な検証と改善をはかった。 事務室に電力消費の表を掲示し「見える化」をはかった。	
自己評価	A (86.6%)	[反省・意見] ・好スコアであるが、まだまだ取り組む余地がある。
評価基準	A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持にとどまった D：現状より悪くなった	
学校関係者 評価	A	[意見・提言] 今後とも省エネやリサイクルに取り組んでほしい。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 省エネやSDG'sに関する取り組みを教職員にも生徒にも「見える化」していくことは、その教育的な意義も含めて極めて重要であると考えられる。今後も改善を続けて、学校のひとつの特長になるとよいと思う。
評価基準	A：達成したと認められる B：ほぼ達成したと認められる C：現状維持であると認められる D：現状より悪くなったと認められる	
次年度に向けての課題	省エネの徹底。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる イ ややあてはまる ウ あまりあてはまらない エ 全くあてはまらない

- A 達成した ア、イの合計が85%以上
- B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満
- C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満
- D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

令和 5 年度 岩手中・高等学校 学校評価 結果報告書		
評価項目 10	特別指導の充実 (中学校)	
現 状	昨年度の自己評価はB (79.6%) であった。	
評価指標	様々な体験活動や特色ある活動等が活発に行われている。	
達成目標 (数値目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・体験活動・職場訪問・ボランティア活動を各定期考査終了直後に実施する。 ・講演会を随時催す。 以上の項目につき、ア、イ (下記自己評価の基準を参照) の合計が85%以上を目指す。	
実際の取り 組み状況	上記項目について、定期的な検証と改善をはかった。	
自己評価	A (95.4%)	[反省・意見] ・多くの体験活動が実施できたことは評価できる。
評価基準	A : 達成した B : ほぼ達成した C : 現状維持にとどまった D : 現状より悪くなった	
学校関係者 評価	A	[意見・提言] ・様々な体験活動が行われている。地域学習発表会は素晴らしかった。
評価基準	A : 達成したと認められる B : ほぼ達成したと認められる C : 現状維持であると認められる D : 現状より悪くなったと認められる	
第三者評価	A	[意見・提言] 例年よりも多くの体験活動が実施できたことは評価できる。今後は、これらの活動をカリキュラムの中にきちんと位置付け、目的を持って成果を求める活動として実施していくことが重要であると考えられる。
評価基準	A : 達成したと認められる B : ほぼ達成したと認められる C : 現状維持であると認められる D : 現状より悪くなったと認められる	
次年度に向 けての課題	様々な体験活動を通じて、変化の激しい社会においても、一人の人間として生きていく力をつけさせる。	

自己評価の基準

ア よくあてはまる **イ** ややあてはまる **ウ** あまりあてはまらない **エ** 全くあてはまらない

A 達成した ア、イの合計が85%以上

B ほぼ達成した ア、イの合計が60%以上、85%未満

C 現状維持にとどまった ア、イの合計が40%以上、60%未満

D 現状より悪くなった ア、イの合計が40%未満

- ・自己評価は全教職員による。
- ・学校関係者評価は、PTA役員(保護者)、学校評議員、学識経験者等、本校関係者による。
- ・第三者評価は、教育コンサルタント 下村 聡 氏による。